はじめに　(数学基礎 B1)

数学基礎 B　＝　**線形代数**

教科書「要点明解　線形数学　三訂版」培風館

(第１章　ベクトル)
- **第２章　行列**
- 第３章　連立１次方程式

(第４章　行列式)

(第５章　行列の対角化)

講義の情報　http://mathweb.sc.niigata-u.ac.jp/~hoshi/teaching-j.html

シラバス　LINK

- ノートを取りながら講義を聴くこと.
  (ノートを回収して確認する可能性があります)
- 講義 $\longrightarrow$ 小テスト (理解度確認テスト，学務情報システム内)

第2章　行列

第２章　行列

連立１次方程式を解いてみる！

第２章　行列

連立１次方程式を解いてみる！

まず，簡単な場合のみ …

第2章　行列

連立1次方程式を解いてみる！

まず，簡単な場合のみ …

式の本数 $m = 2$
変数の数 $n = 2$ …　　x, y

第2章　行列

連立1次方程式を解いてみる！

まず，簡単な場合のみ …

式の本数 $m = 2$
変数の数 $n = 2$ …　　x, y

例1

$$\begin{cases} 2x + 3y &= 1 & \cdots(1) \\ 6x + 9y &= 4 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

第 2 章　行列

連立 1 次方程式を解いてみる！

まず，簡単な場合のみ …

式の本数 $m = 2$
変数の数 $n = 2$ …　　x, y

例 1

$$\begin{cases} 2x + 3y &= 1 & \cdots (1) \\ 6x + 9y &= 4 & \cdots (2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 3 \times (1) : 0 = 1$

第 2 章　行列

連立 1 次方程式を解いてみる！

まず，簡単な場合のみ …

式の本数 $m = 2$
変数の数 $n = 2$ …　　x, y

例 1

$$\begin{cases} 2x + 3y &= 1 & \cdots(1) \\ 6x + 9y &= 4 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 3 \times (1) : 0 = 1$　？

第 2 章　行列

連立 1 次方程式を解いてみる！

まず，簡単な場合のみ …

式の本数 $m = 2$
変数の数 $n = 2$ …　　x, y

例 1

$$\begin{cases} 2x + 3y &= 1 & \cdots (1) \\ 6x + 9y &= 4 & \cdots (2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 3 \times (1) : 0 = 1$　？？

第 2 章　行列

連立 1 次方程式を解いてみる！

まず，簡単な場合のみ …

式の本数 $m = 2$
変数の数 $n = 2$ …　　x, y

例 1

$$\begin{cases} 2x + 3y &= 1 & \cdots (1) \\ 6x + 9y &= 4 & \cdots (2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 3 \times (1) : 0 = 1$　？ ？ ？

第 2 章　行列

連立 1 次方程式を解いてみる！

まず，簡単な場合のみ …

式の本数 $m = 2$
変数の数 $n = 2$ …　　x, y

例 1

$$\begin{cases} 2x + 3y &= 1 & \cdots(1) \\ 6x + 9y &= 4 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 3 \times (1) : 0 = 1$　？ ？ ？ ？ ？ ？ ？

連立 1 次方程式を解いてみる！

まず，簡単な場合のみ …

式の本数 $m = 2$
変数の数 $n = 2$ …　　x, y

例 1

$$\begin{cases} 2x + 3y &= 1 & \cdots(1) \\ 6x + 9y &= 4 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 3 \times (1) : 0 = 1$　？ ？ ？ ？ ？ ？ ？

解なし

例 2

$$\begin{cases} x + 2y &= 3 & \cdots(1) \\ 2x + 4y &= 6 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

例 2

$$\begin{cases} x + 2y &= 3 & \cdots(1) \\ 2x + 4y &= 6 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 2 \times (1) : 0 = 0$

例 2

$$\begin{cases} x + 2y &= 3 & \cdots(1) \\ 2x + 4y &= 6 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 2 \times (1) : 0 = 0$?

例 2

$$\begin{cases} x + 2y &= 3 & \cdots(1) \\ 2x + 4y &= 6 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 2 \times (1) : 0 = 0$　？？

例 2

$$\begin{cases} x + 2y &= 3 & \cdots(1) \\ 2x + 4y &= 6 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 2 \times (1) : 0 = 0$　？ ？ ？

例 2

$$\begin{cases} x + 2y &= 3 & \cdots(1) \\ 2x + 4y &= 6 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 2 \times (1) : 0 = 0$　？ ？ ？ ？ ？ ？ ？

例 2

$$\begin{cases} x + 2y &= 3 & \cdots(1) \\ 2x + 4y &= 6 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 2 \times (1) : 0 = 0$　？ ？ ？ ？ ？ ？ ？

$0 = 0 \quad \cdots(3)$

例 2

$$\begin{cases} x + 2y &= 3 & \cdots(1) \\ 2x + 4y &= 6 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 2 \times (1) : 0 = 0$　？？？？？？？

$0 = 0 \quad \cdots(3)$

(1) かつ (2) の解 $\Longleftrightarrow$ (1) かつ (3) の解

例 2

$$\begin{cases} x + 2y &= 3 & \cdots(1) \\ 2x + 4y &= 6 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 2 \times (1) : 0 = 0$　？ ？ ？ ？ ？ ？ ？

$0 = 0 \quad \cdots(3)$

(1) かつ (2) の解 $\iff$ (1) かつ (3) の解 $\iff$ (1) の解

例 2

$$\begin{cases} x + 2y &= 3 & \cdots(1) \\ 2x + 4y &= 6 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 2 \times (1) : 0 = 0$　？ ？ ？ ？ ？ ？ ？

$0 = 0$　$\cdots(3)$

(1) かつ (2) の解 $\iff$ (1) かつ (3) の解 $\iff$ (1) の解

解は $x + 2y = 3$ をみたす全ての x, y

例 2

$$\begin{cases} x + 2y &= 3 & \cdots(1) \\ 2x + 4y &= 6 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$(2) - 2 \times (1) : 0 = 0$　？？？？？？？

$0 = 0$　$\cdots(3)$

(1) かつ (2) の解 $\iff$ (1) かつ (3) の解 $\iff$ (1) の解

解は $x + 2y = 3$ をみたす全ての x, y

注意

解は無数にあり，すべて直線 $y = -\frac{1}{2}x + \frac{3}{2}$ 上にのっている

例 3

$$\begin{cases} 2x + \quad y \;=\; 3 & \cdots(1) \\ 3x + 2y \;=\; 2 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

例 3

$$\begin{cases} 2x + y = 3 & \cdots(1) \\ 3x + 2y = 2 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$2 \times (1) - (2) : x = 4 \quad \cdots(3)$

例 3

$$\begin{cases} 2x + y = 3 & \cdots(1) \\ 3x + 2y = 2 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$2 \times (1) - (2) : x = 4 \quad \cdots(3)$

$((2) - 3 \times (3)) \times \frac{1}{2} : y = -5 \quad \cdots(4)$

例 3

$$\begin{cases} 2x + y = 3 & \cdots(1) \\ 3x + 2y = 2 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$2 \times (1) - (2) : x = 4 \quad \cdots(3)$

$((2) - 3 \times (3)) \times \frac{1}{2} : y = -5 \quad \cdots(4)$

(1) かつ (2) の解 $\iff$ (2) かつ (3) の解

例 3

$$\begin{cases} 2x + y = 3 & \cdots(1) \\ 3x + 2y = 2 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$2 \times (1) - (2) : x = 4 \quad \cdots(3)$

$((2) - 3 \times (3)) \times \frac{1}{2} : y = -5 \quad \cdots(4)$

(1) かつ (2) の解 $\iff$ (2) かつ (3) の解 $\iff$ (3) かつ (4) の解

例 3

$$\begin{cases} 2x + y = 3 & \cdots(1) \\ 3x + 2y = 2 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$2 \times (1) - (2) : x = 4 \quad \cdots(3)$

$((2) - 3 \times (3)) \times \frac{1}{2} : y = -5 \quad \cdots(4)$

(1) かつ (2) の解 $\iff$ (2) かつ (3) の解 $\iff$ (3) かつ (4) の解

解は $(x, y) = (4, -5)$ のみ

例 3

$$\begin{cases} 2x + y = 3 & \cdots(1) \\ 3x + 2y = 2 & \cdots(2) \end{cases}$$

をみたす x, y は？

$2 \times (1) - (2) : x = 4 \quad \cdots(3)$

$((2) - 3 \times (3)) \times \frac{1}{2} : y = -5 \quad \cdots(4)$

(1) かつ (2) の解 $\iff$ (2) かつ (3) の解 $\iff$ (3) かつ (4) の解

解は $(x, y) = (4, -5)$ のみ

注意

上で**行ったり来たり** ($\iff$) できることが重要
片向き $\Leftarrow, \Rightarrow$ だと**全ての解をもれなくぴったり求めた**とは言えない

- 一般の場合は？

- 一般の場合は？

式の数 m ··· 多い
変数の数 n ··· x, y, z, w ··· 多い

- 一般の場合は？

式の数 m ··· 多い
変数の数 n ··· x, y, z, w ··· 多い

$x_1, x_2, \ldots, x_{100}, \ldots$　多い

- 一般の場合は？

式の数 m ··· 多い
変数の数 n ··· x, y, z, w ··· 多い

$x_1, x_2, \ldots, x_{100}, \ldots$　多い
··· 大変なので「行列」を用いる

- 一般の場合は？

式の数 m ··· 多い
変数の数 n ··· x, y, z, w ··· 多い

$x_1, x_2, \ldots, x_{100}, \ldots$　多い
··· 大変なので「行列」を用いる

上の例 3

$$\left\{\begin{array}{rcl} 2x+y & = & 3 \\ 3x+2y & = & 2 \end{array}\right. \longleftrightarrow \left\{\begin{array}{rcl} x & = & 4 \\ 3x+2y & = & 2 \end{array}\right. \longleftrightarrow \left\{\begin{array}{rcl} x & = & 4 \\ y & = & -5 \end{array}\right.$$

- 一般の場合は？

式の数 m ⋯ 多い
変数の数 n ⋯ x, y, z, w ⋯ 多い

$x_1, x_2, \ldots, x_{100}, \ldots$　多い
⋯ 大変なので「行列」を用いる

上の例 3

$$\left\{\begin{array}{rcl} 2x+y & = & 3 \\ 3x+2y & = & 2 \end{array}\right. \longleftrightarrow \left\{\begin{array}{rcl} x & = & 4 \\ 3x+2y & = & 2 \end{array}\right. \longleftrightarrow \left\{\begin{array}{rcl} x & = & 4 \\ y & = & -5 \end{array}\right.$$

$$\begin{pmatrix} 2 & 1 & 3 \\ 3 & 2 & 2 \end{pmatrix} \longleftrightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & 4 \\ 3 & 2 & 2 \end{pmatrix} \longleftrightarrow \begin{pmatrix} 1 & 0 & 4 \\ 0 & 1 & -5 \end{pmatrix}$$

定義 ($m \times n$ 行列 A)

$$\begin{array}{l} \text{第 1 行} \\ \text{第 2 行} \\ \vdots \\ \text{第 } m \text{ 行} \end{array} \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & a_{22} & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \vdots & & \vdots \\ a_{m1} & a_{m2} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix},$$

$$A = \begin{array}{c} \begin{array}{cccc} \text{第 1 列} & \text{第 2 列} & \cdots & \text{第 } n \text{ 列} \end{array} \\ \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & a_{22} & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \vdots & & \vdots \\ a_{m1} & a_{m2} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix} \end{array}$$

i 行 j 列にある a_{ij} を行列 A の$\underline{(i,j)\text{ 成分}}$という.

$\underline{A = (a_{ij})}$ とかく.

定義 (行ベクトル，列ベクトル)

$1 \times n$ 行列 $(a_1, \cdots, a_n)$ を長さ n の行ベクトル,

$m \times 1$ 行列 $\begin{pmatrix} b_1 \\ \vdots \\ b_m \end{pmatrix}$ を長さ m の列ベクトルという.

定義 (行ベクトル，列ベクトル)

$1 \times n$ 行列 $(a_1, \cdots, a_n)$ を長さ n の行ベクトル，

$m \times 1$ 行列 $\begin{pmatrix} b_1 \\ \vdots \\ b_m \end{pmatrix}$ を長さ m の列ベクトルという．

注意

行列 $A = (a_{ij})$ は，行ベクトル，列ベクトルを用いて

$$A = \begin{pmatrix} \mathfrak{a}_1 \\ \vdots \\ \mathfrak{a}_m \end{pmatrix} \qquad \begin{aligned} \mathfrak{a}_1 &= (a_{11}, \cdots, a_{1n}) \\ &\vdots \\ \mathfrak{a}_m &= (a_{m1}, \cdots, a_{mn}) \end{aligned}$$

$$A = (\mathfrak{b}_1, \cdots, \mathfrak{b}_n) \qquad \mathfrak{b}_1 = \begin{pmatrix} a_{11} \\ \vdots \\ a_{m1} \end{pmatrix}, \cdots, \mathfrak{b}_n = \begin{pmatrix} a_{1n} \\ \vdots \\ a_{mn} \end{pmatrix}$$

ともかける．

定義 (行ベクトル，列ベクトル)

$1 \times n$ 行列 $(a_1, \cdots, a_n)$ を長さ n の行ベクトル，

$m \times 1$ 行列 $\begin{pmatrix} b_1 \\ \vdots \\ b_m \end{pmatrix}$ を長さ m の列ベクトルという．

注意

行列 $A = (a_{ij})$ は，行ベクトル，列ベクトルを用いて

$$A = \begin{pmatrix} \mathfrak{a}_1 \\ \vdots \\ \mathfrak{a}_m \end{pmatrix} \qquad \begin{aligned} \mathfrak{a}_1 &= (a_{11}, \cdots, a_{1n}) \\ &\vdots \\ \mathfrak{a}_m &= (a_{m1}, \cdots, a_{mn}) \end{aligned}$$

$$A = (\mathbb{b}_1, \cdots, \mathbb{b}_n) \qquad \mathbb{b}_1 = \begin{pmatrix} a_{11} \\ \vdots \\ a_{m1} \end{pmatrix}, \cdots, \mathbb{b}_n = \begin{pmatrix} a_{1n} \\ \vdots \\ a_{mn} \end{pmatrix}$$

ともかける．教科書の太字 $\mathbf{a}_1$ は手書きでは二重線 $\mathfrak{a}_1$ でかく．

例

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 4 & 5 & 6 \end{pmatrix}.$$

2×2 行列　　2×2 行列　　2×3 行列

例

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 4 & 5 & 6 \end{pmatrix}.$$

2×2 行列　　2×2 行列　　2×3 行列

$m \times n$ 行列どうしは同じ型という

例

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 4 & 5 & 6 \end{pmatrix}.$$

2×2 行列　　2×2 行列　　2×3 行列

$m \times n$ 行列どうしは同じ型という

定義 ($A = B$)

$A = (a_{ij})$, $B = (b_{ij})$ を同じ型の行列とする.

例

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 4 & 5 & 6 \end{pmatrix}.$$

2×2 行列　　2×2 行列　　2×3 行列

$m \times n$ 行列どうしは同じ型という

定義 ($A = B$)

$A = (a_{ij})$, $B = (b_{ij})$ を同じ型の行列とする.

A と B は等しい $\overset{\text{def}}{\Longleftrightarrow}$ すべての i, j に対して, $a_{ij} = b_{ij}$.

例

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 4 & 5 & 6 \end{pmatrix}.$$

2×2 行列　　2×2 行列　　2×3 行列

$m \times n$ 行列どうしは同じ型という

定義 ($A = B$)

$A = (a_{ij})$, $B = (b_{ij})$ を同じ型の行列とする.

A と B は等しい $\overset{\text{def}}{\iff}$ すべての i, j に対して，$a_{ij} = b_{ij}$.

A と B は等しいとき，$A = B$とかく.

例

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}, \quad C = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 4 & 5 & 6 \end{pmatrix}.$$

2×2 行列　　2×2 行列　　2×3 行列

$m \times n$ 行列どうしは同じ型という

定義 ($A = B$)

$A = (a_{ij})$, $B = (b_{ij})$ を同じ型の行列とする.

A と B は等しい $\overset{\text{def}}{\iff}$ すべての i, j に対して，$a_{ij} = b_{ij}$.

A と B は等しいとき，$A = B$とかく.

- def ··· definition(定義)

定義 (零行列)

$A = (a_{ij})$ を行列とする.

定義 (零行列)

$A = (a_{ij})$ を行列とする.

A は零行列 $\overset{\text{def}}{\Longleftrightarrow}$ すべての i, j に対して, $a_{ij} = 0$.

定義 (零行列)

$A = (a_{ij})$ を行列とする.

A は零行列 $\overset{\text{def}}{\iff}$ すべての i, j に対して，$a_{ij} = 0$.

A が零行列のとき，$A = \boldsymbol{O}$ とかく：

$$\boldsymbol{O} = \begin{pmatrix} 0 & 0 & \cdots & 0 \\ 0 & 0 & \cdots & 0 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & 0 & \cdots & 0 \end{pmatrix}$$

定義 (零行列)

$A = (a_{ij})$ を行列とする.

A は零行列 $\overset{\text{def}}{\iff}$ すべての i, j に対して，$a_{ij} = 0$.

A が零行列のとき，$A = \boldsymbol{O}$ とかく：

$$\boldsymbol{O} = \begin{pmatrix} 0 & 0 & \cdots & 0 \\ 0 & 0 & \cdots & 0 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & 0 & \cdots & 0 \end{pmatrix}$$

定義 (正方行列)

$n \times n$ 行列を n 次正方行列という.

定義 (零行列)

$A = (a_{ij})$ を行列とする.

A は零行列 $\overset{\text{def}}{\iff}$ すべての i, j に対して，$a_{ij} = 0$.

A が零行列のとき，$A = \boldsymbol{O}$ とかく：

$$\boldsymbol{O} = \begin{pmatrix} 0 & 0 & \cdots & 0 \\ 0 & 0 & \cdots & 0 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & 0 & \cdots & 0 \end{pmatrix}$$

定義 (正方行列)

$n \times n$ 行列を n 次正方行列という.

- 正方行列は実際にかくと正方形

定義 (行列 A と B の和，差，定数倍)

$A = (a_{ij})$, $B = (b_{ij})$ を同じ型の行列，c を実数とする．

定義 (行列 A と B の和，差，定数倍)

$A = (a_{ij})$, $B = (b_{ij})$ を同じ型の行列，c を実数とする．

$A + B := (a_{ij} + b_{ij})$　$\underline{A \text{ と } B \text{ の和}}$

定義 (行列 A と B の和，差，定数倍)

$A = (a_{ij})$, $B = (b_{ij})$ を同じ型の行列，c を実数とする．

$A + B := (a_{ij} + b_{ij})$　A と B の和

$A - B := (a_{ij} - b_{ij})$　A と B の差

定義 (行列 A と B の和，差，定数倍)

$A = (a_{ij})$, $B = (b_{ij})$ を同じ型の行列，c を実数とする．

$A + B := (a_{ij} + b_{ij})$　A と B の和

$A - B := (a_{ij} - b_{ij})$　A と B の差

$cA := (ca_{ij})$　A の c 倍

定義 (行列 A と B の和，差，定数倍)

$A = (a_{ij})$, $B = (b_{ij})$ を同じ型の行列，c を実数とする．

$A + B := (a_{ij} + b_{ij})$　A と B の和

$A - B := (a_{ij} - b_{ij})$　A と B の差

$cA := (ca_{ij})$　A の c 倍

- $X := Y$ は X を Y で定義する という記号

定理 2.1

A, B, C を同じ型の行列，$\boldsymbol{O}$ を零行列とすると，次が成立する．

定理 2.1

A, B, C を同じ型の行列，$\boldsymbol{O}$ を零行列とすると，次が成立する．

1. $A + B = B + A$　(交換法則)

定理 2.1

A, B, C を同じ型の行列，$\boldsymbol{O}$ を零行列とすると，次が成立する．

1. $A + B = B + A$　(交換法則)
2. $(A + B) + C = A + (B + C)$　(結合法則)

定理 2.1

A, B, C を同じ型の行列，$\boldsymbol{O}$ を零行列とすると，次が成立する．

1. $A + B = B + A$　(交換法則)
2. $(A + B) + C = A + (B + C)$　(結合法則)
3. $A + \boldsymbol{O} = A$

定理 2.1

A, B, C を同じ型の行列，$\boldsymbol{O}$ を零行列とすると，次が成立する．

1. $A + B = B + A$　(交換法則)
2. $(A + B) + C = A + (B + C)$　(結合法則)
3. $A + \boldsymbol{O} = A$
4. $A - A = \boldsymbol{O}$

定理 2.1

A, B, C を同じ型の行列，$\boldsymbol{O}$ を零行列とすると，次が成立する．

1. $A + B = B + A$　(交換法則)
2. $(A + B) + C = A + (B + C)$　(結合法則)
3. $A + \boldsymbol{O} = A$
4. $A - A = \boldsymbol{O}$

定理 2.2

A, B を同じ型の行列，c, d を実数とすると，次が成立する．

定理 2.1

A, B, C を同じ型の行列，$\boldsymbol{O}$ を零行列とすると，次が成立する．

1. $A + B = B + A$　(交換法則)
2. $(A + B) + C = A + (B + C)$　(結合法則)
3. $A + \boldsymbol{O} = A$
4. $A - A = \boldsymbol{O}$

定理 2.2

A, B を同じ型の行列，c, d を実数とすると，次が成立する．

1. $c(dA) = (cd)A$

定理 2.1

A, B, C を同じ型の行列，$\boldsymbol{O}$ を零行列とすると，次が成立する．

1. $A + B = B + A$　(交換法則)
2. $(A + B) + C = A + (B + C)$　(結合法則)
3. $A + \boldsymbol{O} = A$
4. $A - A = \boldsymbol{O}$

定理 2.2

A, B を同じ型の行列，c, d を実数とすると，次が成立する．

1. $c(dA) = (cd)A$
2. $c(A + B) = cA + cB, \quad (c + d)A = cA + dA$

定理 2.1

A, B, C を同じ型の行列，$\boldsymbol{O}$ を零行列とすると，次が成立する．

1. $A + B = B + A$　(交換法則)
2. $(A + B) + C = A + (B + C)$　(結合法則)
3. $A + \boldsymbol{O} = A$
4. $A - A = \boldsymbol{O}$

定理 2.2

A, B を同じ型の行列，c, d を実数とすると，次が成立する．

1. $c(dA) = (cd)A$
2. $c(A + B) = cA + cB, \quad (c + d)A = cA + dA$
3. $A + (-1)B = A - B, \quad 1A = A$